



ねんてん先生の

575

593

原さん。特製ですね、いいなあ。原さんの学校の5年生からはほかに次のような句も届きました。

さくらもちいっきに食べてのどつまる

明瀬 美桜

かしわもち葉っぱは食べるの食べないの

美藤 舞帆

さくらもち食べるほっぺはさくら色

佐藤 奈佳

どの句もうまそうです。

ところで、6月になって、京都のお菓子屋さんには三角形の「みなづき」がならんでいますね。漢字では水無月と書きます。水無月は6月の異称（別の名前）ですが、水無月に食べるのは水無月、というところに遊び心がありますね。菓子の水無月が6月の菓

水無月ならぶ



子になったのは昭和になったころから。京都の菓子屋さんの考えついたことらしいです（『事典和菓子の世界』）。野村さん。とがった方から食べるか、その逆の太いほうから食べるか、の違いでしょうか。ちまきの仲間だと思えますが、私は新潟県の笹団子（わたし）が大好きです。

澤田さん。ちまきは笹で包んでいます。その笹にくっついていられるもち、それをなめるか歯でしごいて食べたのですね。この澤田さんのちょっと行儀の悪いしぐさ、とってもいいなあ。人目をさけて私もよくやります。（俳人、京都教育大・佛教大名誉教授 坪内稔典）

俳句を募っています（小学6年生まで）。作品3点までと、住所、氏名、学校名、学年、電話番号を明記し、〒604-8577 京都新聞 読者交流センター「ねんてん先生の575」係。メールは575haiku@mb.kyoto-np.co.jp 3カ月に1度、掲載作品から優秀作を選びます。

かしわもちわたしのだけはいちご入り

京都市・京都聖母学院小5年 原 友香

ばあばあとちまきの食べ方上下ぎやく

京都市・終野小5年 野村 歩花

ちまきの葉きれいに味わいごちそうさん

京都市・北白川小5年 澤田 結生

世界の子どもたち



予防接種の証明書

インド北東部の村で、流行病のはしりと風疹から子どもたちを守るため、みんなで予防接種の注射を受ける取り組みが行われました。注射をした証明書をもらい、にっこり笑顔の子どもたち。これで一安心です。

はしかや風疹は感染力が強く、こわい病気ですが、予防接種で防げます。しかし、村ではワクチンが届きにくかったり、予防接種の大切さを知らなかったりして、子どもたちが予防接種をできないことがあります。

子どもたちがみんな予防接種を受けられれば、村も病気から守られます。（日本ユニセフ協会）



予防接種を受けた後、その証明書を見せる子どもたち
＝インド（日本ユニセフ協会提供）